

②うまや遺跡

うまや遺跡は阿武隈川と釈迦堂川との合流点付近の沖積地に立地しています。遺跡の西側や南側にかけて東山道（推定）が、その北西側に上人壇廃寺跡、南西側に栄町遺跡がそれぞれ位置しています。現在の地名は崩面や中宿といいますが、地元では「うまや」と呼ばれています。

調査の結果、100軒以上の竪穴建物跡が確認されました。6・7世紀代や9世紀代の竪穴建物跡もありましたが、ほとんどが8世紀のものです。8世紀に入ると一辺10mの大型の竪穴建物跡や掘立柱建物などから構成される大集落を形成しますが、9世紀に入ると突如集落数が激減します。

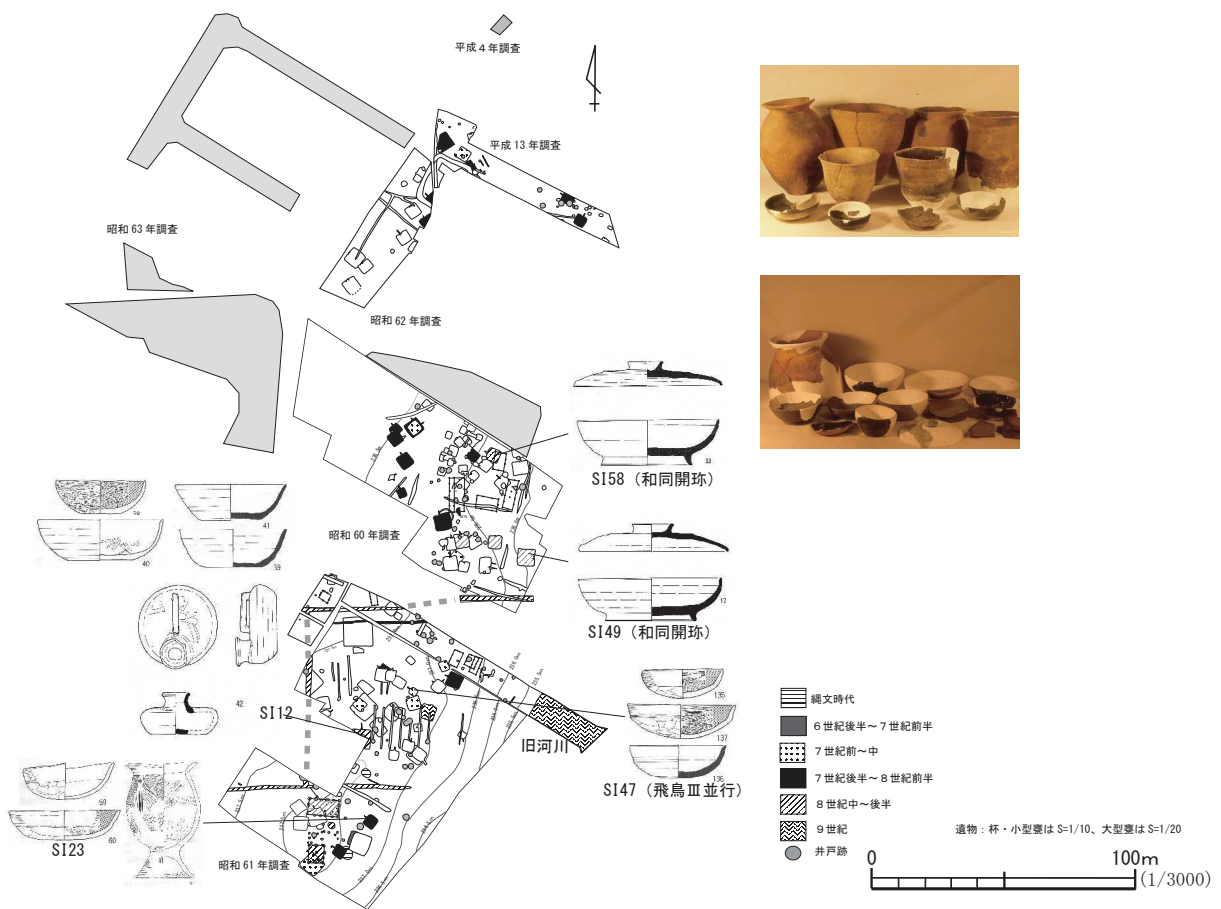
出土遺物は、土師器や須恵器などの土器が多量に出土しています。福島県内初の出土となった和同開珎と胞衣を埋納した須恵器（蓋と高台付坏）など、関東地方（坂東）など、他の地域から搬入された可能性の高い遺物が多いのが特徴です。これは、南西側に位置する推定東山道を介した人的・物的交流が盛んであったことがうかがわれ、ほかの集落とは異なる様相を指摘することが可能です。

8世紀代の石背国、あるいは石背郡衙と密接に関わる大規模な集落で、石背郡衙や上人壇廃寺跡の造営に深く関わった人々の居住地や、東山道を介した中央や関東地方との密接な関係が指摘できる遺跡です。また、現状では明確な「駅家」遺構は未発見ですが、立地的に存在する可能性が高く、過去の調査を含めた検証が必要と考えられます（第25図）。

③べいさんじあと しせきべいさんじきょうづかぐん米山寺跡・史跡米山寺経塚群

米山寺跡は、上人壇廃寺跡から西側1.5km地点の丘陵上に位置します。区画整理事業にともなう発掘調査の結果、9世紀代を中心とする堂跡や厨跡などの建物跡が確認されており、上人壇廃寺跡とは異なる在地豪族の氏寺的な性格が想定されています。現在、米山寺公園内に建物跡の一部を復元表示しています。

史跡米山寺経塚群は、この米山寺の北側に位置する日枝神社の境内に位置しています。明治時代に承安元年の年号を有する陶製の経筒外容器や銅製の経筒などが出土しており、同時期に同じ施主が現在の桑折町と福島市で同様な埋経を行ったことが判明しています。過去には埋経された経典が残っていましたが、関東大震災で焼失してしまい、現在は陶製の経筒外容器、銅製経筒、短刀・鐔、常滑焼の三筋壺などが残るのみとなりました（第26図）。遺跡は国の史跡、出土遺物は国の重要文化財にそれぞれ指定されています（岩代米山寺経塚出土品）。



第25図 うまや遺跡と出土遺物



米山寺跡調査時



米山寺跡調査後
(建物の柱を復元した整備を実施)



米山寺経塚群1号経塚



1号経塚出土遺物
(経筒・須恵器系中世陶器)



3号経塚出土遺物
(経筒・経筒外容器)



3号経塚出土遺物(短刀)

④^{とうさんどう}東山道（推定）

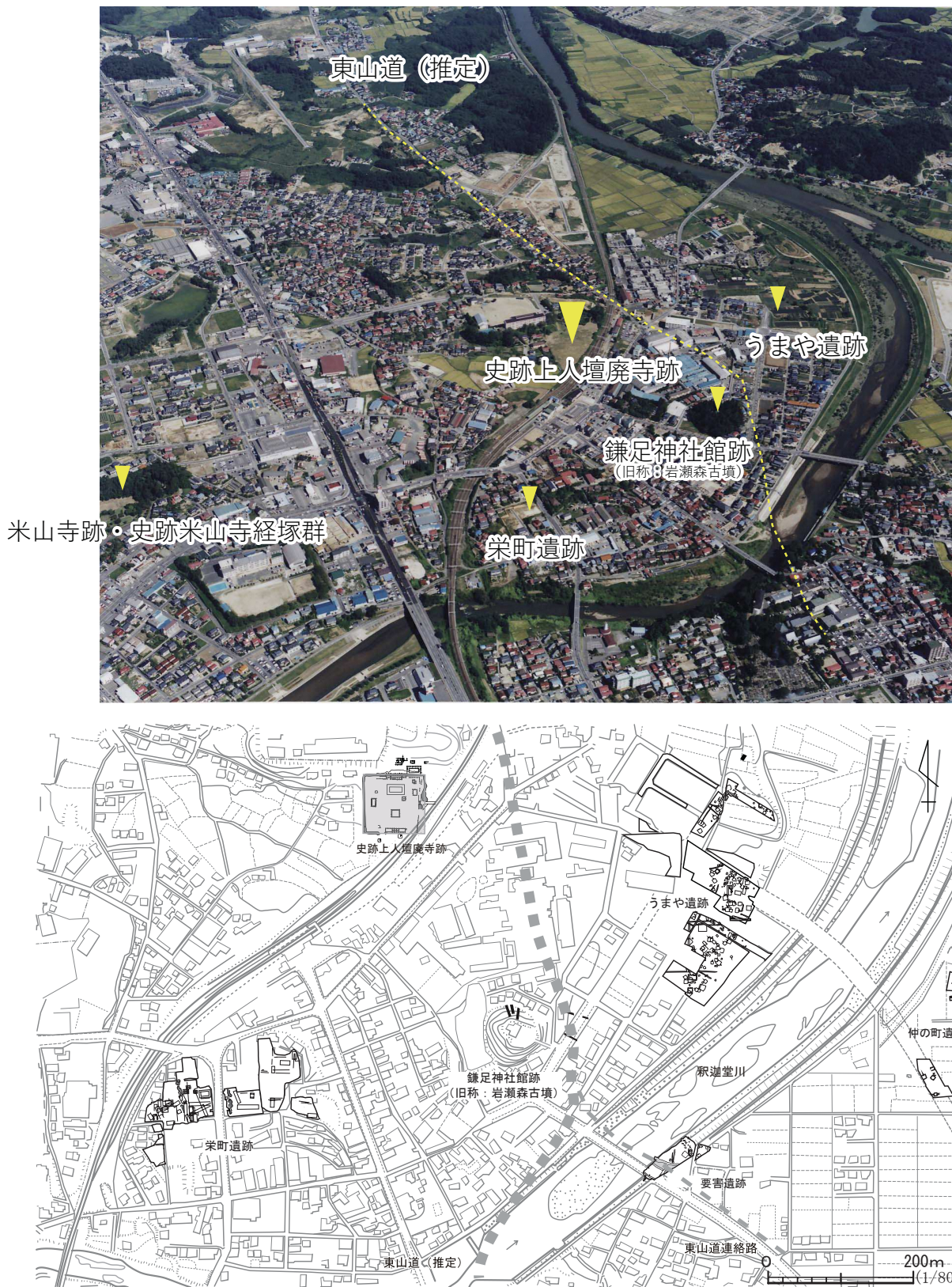
上人壇廃寺跡や栄町遺跡など、石背郡内には官道の東山道が通っていました。研究史上、石背郡内における東山道のルートは二つの案に集約されます。一つは阿武隈川左岸を通るルートで、山田安彦氏や永山倉造氏などに代表されます（山田安彦 1978「陸奥国」藤岡謙二郎編『古代日本の交通路Ⅱ』、大明堂・永山倉造「古代の道」『須賀川市史』第1巻、1974年）。特に、永山氏は遺跡の分布や地名などから、南から成田（現在の矢吹・鏡石町）、前田川、和田、芦田塚、中宿、下宿、滑川など、阿武隈川沿いを通っていたものと想定しています。

もう一つは現在の旧国道4号や近世の奥州街道付近に比定する案で、鈴木啓氏や武部健一氏などが主張しています（武部健一『完全踏査 古代の道 畿内・東海道・東山道・北陸道』2004年、吉川弘文館・鈴木啓『南奥の古代通史』2009年、歴史春秋社）。

近年、東山道の痕跡が郡山市の荒井猫田遺跡で確認されました（郡山市教委『荒井猫田遺跡（Ⅱ区）―第14次発掘調査報告―』2002年・郡山市教委『荒井猫田遺跡（Ⅱ区）―第15次発掘調査報告―』2003年）。荒井猫田遺跡の東山道跡は直線的な道路で、幅8～10m程度の両側側溝を有しています。この発見で、鈴木氏や武部氏案の可能性が高くなりました。

一方、石背郡内における東山道や道路跡はこれまで未発見とされてきましたが、過去の調査から古代の可能性が高い道路跡がいくつか判明しています。

岩瀬森古墳（現在は、鎌足神社館跡）の周溝の確認調査のために設定した6号トレンチには遺構の発見がないと報告されていますが、土層の断面図を見る限り2条の溝が掘削されていました。調査時はこれを自然の落ち込みと判断しましたが、溝の内寸は断面図で7mありました。東西の溝の双方ともに溝の上位に砂が堆積していたと記載されており、これが東山道の一部であった可能性が高いと考えられます。この溝跡や近世の奥州街道などを参考にとすると、東山道は、釈迦堂川を渡り、岩瀬森の北側を通っていたことが考えられます。また、釈迦堂川東岸の要害遺跡（要害館跡）からも、釈迦堂川に接続する道路状の遺構が確認されています。奈良時代の竪穴建物跡と軸線が同じことから、この時代の可能性が高いと考えられます（第27図）。



第 27 図 東山道 (推定)

4. 中世以降の岩瀬郡

鎌倉時代、二階堂氏が岩瀬郡を領有するようになり、各地に拠点を築くようになります。中世を特徴づけるものとして、鎌倉時代から南北朝時代にかけて阿弥陀三尊を図像化した板碑があります。この阿弥陀三尊の板碑は全国的に岩瀬郡内が特に多く、本地域を特徴づける石造物の一つです。

南北朝時代は、須賀川盆地の東側に南朝の宇津峰城跡（塩田地区）、西側に北朝の稲村城（稲地区）がそれぞれ位置しています。靱山遺跡（森宿地区）は北朝の年号を有する板碑をともしう集団墓地で、この時期の代表的な事例として知られています。室町時代初頭は稲村御所館跡（稲地区）があります。室町時代の統治機関である鎌倉府から派遣された足利満貞が東北地方支配の拠点として築いた館跡で、近年の発掘調査により、15世紀代に限定されるかわらけ、古瀬戸、烏帽子や漆器などが出土し、稲村御所もしくは稲村殿と呼ばれた当時の様相が明らかとなりました。

戦国時代はその名のとおり、戦いにそなえた城館が各地に築かれるようになります。現在の須賀川市街地に位置する二階堂氏の居城、須賀川城跡や長沼城、今泉城、木舟城などが代表です。須賀川城は天正17（1589）年に伊達政宗によって落城しましたが、近年の発掘調査でこの時期の焼土層や炭化米層などが初めて確認されました。岩瀬郡西部にある長沼城は会津地方を支配していた蘆名氏とのいわゆる境目の城で、石垣や階段などが残っています。また、天下統一後、豊臣秀吉が会津の伊達政宗を成敗する際、この長沼城に宿泊しています。さらに、この城下町を描いた絵図（「長沼城古図」）があり、現在でも残っている地名などを確認することができます。

江戸時代は、須賀川城の堀を埋め、あらたに奥州街道を設置しました。宿駅としての須賀川宿は岩城（磐城）街道、棚倉街道、三春街道、会津街道が交わる交通の要衝で、米やたばこなど物資の集散・集積地として繁栄します。これらの経済力を背景に町民による自治をおこなう須賀川町会所や白河藩の郷学所「敷教第二舎」が設置されました。一方、上人壇廃寺跡の位置する地区は、江戸時代は越後高田藩領の一部となり、当時の文書には「上人段」と記載されています。

戊辰戦争後、明治時代に入ると、明治2（1869）年に須賀川県が設置されますが、1か月後には白河県に併合されます。この時期は近代化にともなう施設の整備がなされ、現在の市街地に須賀川産馬会社や須賀川医学所、岩瀬郡役所などが設置されています。また、明治20（1887）年に現在の東北本線が開通し、上人壇廃寺跡の南東側に須賀川駅が設置されます。

このうち、現在の公立岩瀬病院の前身である須賀川病院に付属する医学所には関東大震災後に内務大臣兼帝都復興院総裁として東京の復興を指揮した後藤新平が学んでいます。また、猪苗代湖の農業用水である安積疎水の構想は小林久敬がその端緒となり、整備に際して私財を投じています。産業は江戸時代に発展したたばこの集積・加工の場として引き続き繁栄し、のちに官営・専売公社の工場となります。

市のあゆみは、明治9（1876）年に本町・中町・北町・道場町が合併し須賀川村となります。

その後、森宿村の一部を合併し須賀川町となり、昭和 29（1954）年に浜田村、西袋村、稲田村、小塩江村の 4 村が合併して須賀川市が誕生し、さらに昭和 30（1955）年に仁井田村、昭和 42（1967）年に当時は石川郡に属していた大東村、平成 17（2005）年に長沼町及び岩瀬村が合併し、現在の須賀川市となりました。

5. 史跡周辺の文化財

平成 30（2018）年 3 月現在、本市には国指定文化財 9 件（重要文化財 4 件、史跡 4 件、名勝 1 件）、福島県指定文化財 20 件（重要文化財 11 件、重要無形民俗文化財 1 件、重要有形民俗文化財 1 件、史跡 3 件、天然記念物 4 件）、須賀川市指定文化財 104 件（有形文化財 66 件、無形民俗文化財 8 件、有形民俗文化財 2 件、史跡 16 件、天然記念物 12 件）の 133 件が指定されています。また、このほか国登録文化財が 3 件、国認定重要美術品が 4 件あり、指定・登録されているものを合わせると 140 件となります。ここでは、上人壇廃寺跡周辺の指定文化財について取り上げます。

上人壇廃寺跡周辺に所在する指定文化財の多くは有形文化財が大半を占め、その大半は、江戸時代のものが占めることが特徴です（第 28 図）。

江戸時代以前の指定文化財は、上人壇廃寺跡や史跡米山寺経塚群、樹齢 350 年とされる二階堂神社の大ケヤキ（市指定天然記念物）がそれぞれ位置しています。また、鎌倉時代の板碑である陸奥國須賀川愛宕山碑（市指定文化財）は、江戸時代の白河藩主の松平定信が編纂した『集古十種』に掲載されていることで有名です。

また、須賀川市立博物館（以下、「市立博物館」という）に所蔵されている指定文化財は、岩代米山寺経塚出土品（経筒・経筒外容器、刀子など）（国指定重要文化財）、うまや遺跡出土の袍衣と和同開珎を埋納した須恵器蓋付高台付坏（市指定文化財）、稲古館古墳から出土した銅漆作大刀や出土品（福島県指定重要文化財）などがあり、上人壇廃寺跡の出土遺物（福島県指定重要文化財）の一部も博物館常設展の一部として展示されています。

この市立博物館は、昭和 45（1970）年に建てられた、福島県内ではもっとも古い自治体立の博物館です。首藤保之助コレクション（旧阿武隈考古館蔵品）の須賀川市への寄贈が博物館設置の経緯で、そのコレクションは日本各地・樺太・朝鮮半島の土器・石器類など多岐にわたります。コレクションのうち、上人壇廃寺跡の瓦塔や瓦などが、福島県指定重要文化財に、旧石器時代の成田型ナイフ形石器が市指定文化財に指定されています。

江戸時代の上人壇廃寺跡を含む須賀川市中心市街地は、江戸時代、須賀川宿として栄えた地でした。磐城街道や奥州街道など主要街道の接続地点で、物資の集散地や宿場町として繁栄を極めました。市立博物館や個人で所有する指定文化財は、この江戸時代の有力層が所有していた絵画や俳諧関係の資料のものが多く、代表的なものとして、亜欧堂田善の銅板画・原版類や、俳諧関係の資料などがあります。

亜欧堂田善は、須賀川出身の江戸時代後期の銅板画家で、その銅版画は日本で初めて国

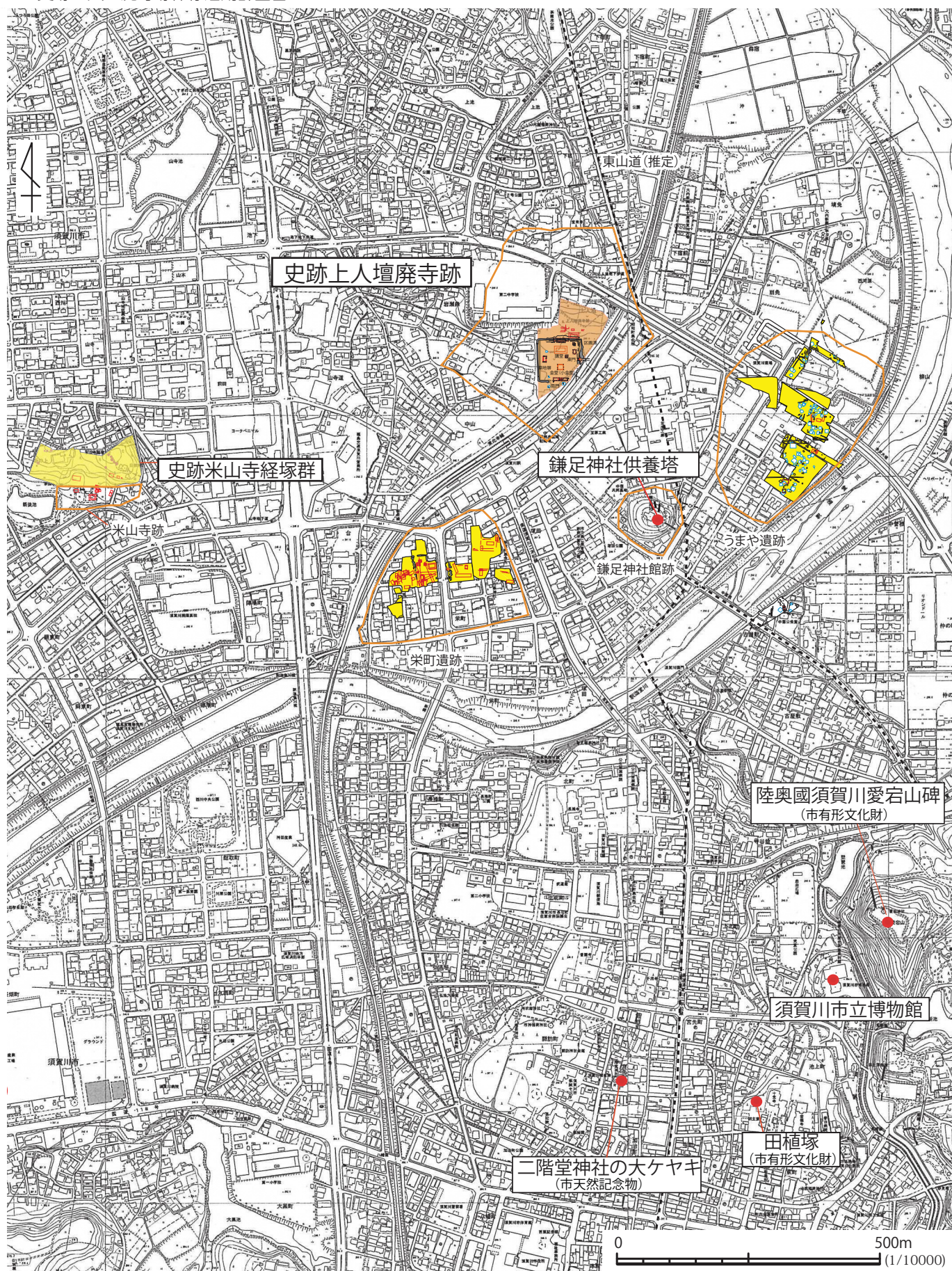
の重要文化財に指定されました。銅板画やその原版、製作用具などのほか、油彩画などが市立博物館で所蔵・展示されています。

俳諧関係の資料は、元禄2（1689）年、松尾芭蕉が「おくのほそ道」の行脚の際、かねてから親交のあった須賀川町の有力者であった相楽等躬宅で8日間過ごすなど、俳諧の拠点として栄えた時期の資料が多く、現在でも俳句が盛んです。本町地区に軒の栗句碑（市有形文化財）、十念寺境内に田植塚、市立図書館に矢部椿郎が収集した江戸期の俳諧摺のコレクション（市有形文化財）があります。

上人壇廃寺跡周辺の埋蔵文化財は、奈良・平安時代と中世以降のものが多く位置しています。

奈良・平安時代は、石背郡衙関連遺跡群としての栄町遺跡、うまや遺跡、米山寺跡・史跡米山寺経塚群のほか、釈迦堂川東岸から阿武隈川にかけて要害遺跡（要害館跡）や仲の町遺跡などが位置しています。

また、中世は、二階堂氏関連の城館が丘陵上に多く立地しています。須賀川城跡は、鎌倉時代に、鎌倉から派遣された二階堂氏の本拠で、現在残る遺構は主に戦国時代のものです。この支城として守谷館や諏訪館、雨呼館などがあり、これらを合わせて須賀川城跡という意見もあります（第29図）。

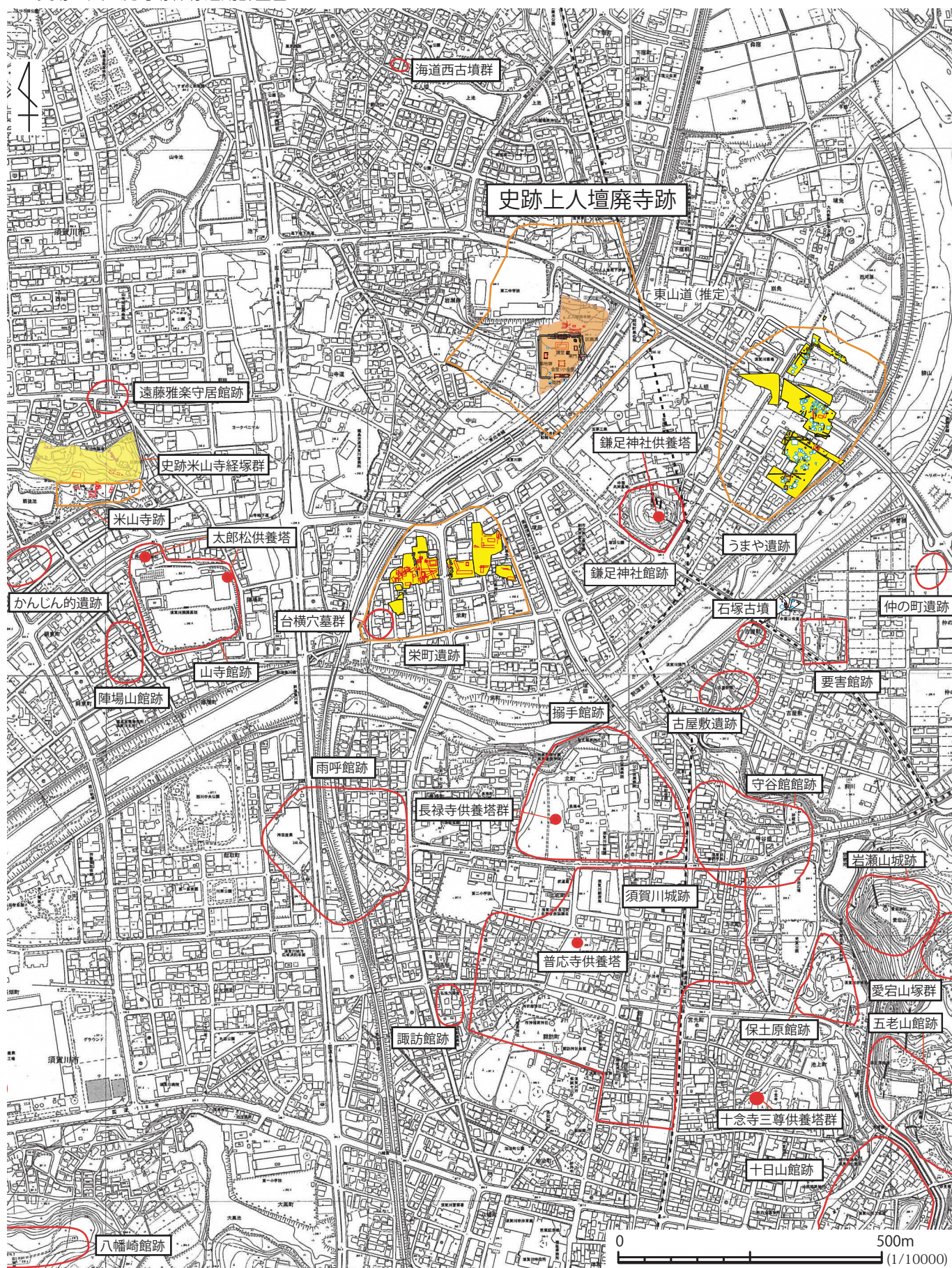


第 28 図 上人壇廃寺跡周辺の指定文化財

第8表 上人壇廃寺跡周辺の指定文化財

名 称	種 別	所 在	備 考
岩代米山寺経塚出土品	国重要文化財（考）	市立博物館所蔵	
銅版画都名所図 亜欧堂田善筆（二十五図） 一帖 附 東都名所図 原版四枚	国重要文化財（絵）	市立博物館所蔵	
銅版画見本帖 亜欧堂田善筆（十二図）一 帖 附 多賀城碑図 ネーデルランドの独 立図原版一枚	国重要文化財（絵）	市立博物館所蔵	
太田貞喜の亜欧堂田善コレクション	県重要文化財（絵）	市立博物館所蔵	
白河・石川・岩瀬・田村・安積・安達 六 郡絵図	県重要文化財（歴）	市立博物館所蔵	
上人壇廃寺跡	国史跡（史跡）	上人坦・岩瀬森	
米山寺経塚群	国史跡（史跡）	西川字坂の上	
上人壇廃寺跡出土品	県重要文化財（考）	市立博物館所蔵	
稲古館古墳出土 銅漆作大刀 附 墳丘及び石室内出土品	県重要文化財（考）	市立博物館所蔵	
新訂万国全図	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
愛宕山眺望之図	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
バイオリン図	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
亜欧堂田善の自隅田川望南之図	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
亜欧堂田善の雲竜図	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
亜欧堂田善の銅版画原版（2点）（3作品）	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
山水人物図押絵貼屏風	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
山水図	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
市原家の亜欧堂田善コレクション	市有形文化財（絵）	市立博物館所蔵	
青津保壽刀装具コレクション	市有形文化財（工）	市立博物館所蔵	
須賀川ガラス杯	市有形文化財（工）	市立博物館所蔵	
須賀川ガラス小鉢	市有形文化財（工）	市立博物館所蔵	
須賀川ガラス風鈴	市有形文化財（工）	市立博物館所蔵	
須賀川ガラス水差し	市有形文化財（工）	市立博物館所蔵	
俳句摺（矢部保太郎の俳句摺コレクション外）	市有形文化財（書）	市立博物館所蔵	
三野英彦の張堂大龍コレクション	市有形文化財（書）	市立博物館所蔵	
成田型ナイフ型石器	市有形文化財（書）	市立博物館所蔵	
うまや遺跡出土須恵器蓋付高台付杯	市有形文化財（考）	市立博物館所蔵	
跡見塚古墳群出土品	市有形文化財（考）	市立博物館所蔵	
亜欧堂田善の銅版画製作用具	市有形文化財（歴）	市立博物館所蔵	
五月雨句碑	市有形文化財（歴）	市立博物館所蔵	
二階堂行高家伝来の具足等二階堂家資料	市有形文化財（歴）	市立博物館所蔵	
二階堂神社の大ケヤキ	市有形文化財 （天然記念物）	宮先町	
田植塚	市有形文化財（歴）	池上町	
陸奥國須賀川愛宕山碑	市有形文化財（歴）	愛宕山	

※個人所蔵の指定文化財については、この表に掲載していない



第 29 図 上人壇廃寺跡周辺の埋蔵文化財包蔵地

第9表 上人壇廃寺跡周辺の埋蔵文化財包蔵地

名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
上人壇廃寺跡	上人坦・岩瀬森	寺院跡	奈良・平安	国指定史跡
栄町遺跡	栄町	官衙跡	奈良・平安	
うまや遺跡	中宿・崩免・境免	散布地	縄文・古墳～中世	
米山寺経塚群	西川字坂の上	経塚	平安	国指定史跡
海道西古墳群	森宿字海道西	古墳	古墳	
かんじんの遺跡	西の内町	散布地	平安	
遠藤雅楽守居館跡	西川字山寺	城館跡	中世	
米山寺跡	西川字坂の上	寺院跡	平安	
山寺館跡	陣場町	城館跡	中世	
太郎松供養塔	陣場町	石造物	中世	
須賀川城跡	宮先町・諏訪町・本町・北町外	城館跡	中世	
八幡崎館跡	八幡山	城館跡	中世	
下宿寺院跡	森宿字海道下	寺院跡	中世	
下江持遺跡	江持字岩崎	散布地	奈良・平安	
鎌足神社館跡	中宿	城館跡	中世	
鎌足神社供養塔	中宿	石造物	中世	
仲の町遺跡	仲の町	散布地	奈良・平安	
古屋敷遺跡	古屋敷	散布地	縄文・奈良・平安	
要害館跡	中宿	城館跡	中世	
石塚古墳	中宿	古墳	古墳	
長緑寺供養塔群	北町	石造物	中世	
普応寺供養塔	諏訪町	石造物	中世	
十念寺三尊供養塔群	池上町	石造物	中世	
保土原館跡	池上町	城館跡	中世	
岩瀬山城跡	愛宕山	城館跡	中世	
愛宕山塚群	愛宕山	塚	古墳	
下宿一里塚供養塔群	森宿字海道下	塚	近世	
陣場山館跡	陣場町	城館跡	中世	
雨呼館跡	長禄町・館取町	城館跡	中世	
搦手館跡	北町	城館跡	中世	
守屋館館跡	守谷館	城館跡	中世	
五老山館跡	栗谷沢	城館跡	中世	
十日山館跡	東町	城館跡	中世	
諏訪館跡	諏訪町	城館跡	中世	
台横穴墓群	栄町	古墳	古墳	